

仮殿遷座祭／平成27年3月27日

本殿遷座祭／平成28年11月6日

春日大社

第六十次式年造替だより

平成26年5月15日 発行／式年造替事務局
住所／奈良市春日野町160 電話／0742-22-7788

第3号

金地螺鈿毛抜形太刀（国宝）▶

▼平安の究極美 猫に雀の螺鈿



▲心を込めて初打ち奉仕する花山院宮司

第六十次式年造替記念 金地螺鈿毛抜形太刀 復元始まる

今回六十回目となる記念のご造替にあたり、金地螺鈿毛抜形太刀を奉製、大神様に奉獻することとなりました。



永らく太刀が納められてきた春日大社御本殿

花山院宮司奉製祭での所感

このたびは六十次という記念の式年造替になりますので、日本美術史上最も美しい太刀を大神様へお返しすることと致しました。昭和五年に撤下された、関白藤原頼長公の太刀といわれる金地螺鈿毛抜形太刀の復元製作が始ま

り、十月七日、刀匠月山貞利氏の工房にて初打ちを行いました。奉製祭を斎行した後、赤々とした鉄の塊りへ魂を入れるべく、神様への奉納の思いを含め全霊を傾け打たせて頂きました。

篤い春日大明神への崇敬の念を復元奉納させて頂く感謝の気持ちで溢れました。造替へ向けての皆様への強い思いをより一層新たにさせて頂きました。

当社の宝物殿には、平安時代の太刀として最高傑作と言われる「金地螺鈿毛抜形太刀」があります。これは、昭和五年、第五十六次式年造替の際に御本殿から撤下され国宝に指定されたもので、同様の毛抜形太刀は、伊勢神宮に伝えられた太刀（重文）、と、当社若宮神社から平成十二年に発見された紫壇地螺鈿毛抜形太刀（国宝）の三腰しかない、大変貴重な太刀でもあります。

去る平成二十五年十月七日、奈良県桜井市の月山日本刀鍛錬道場において関係者が一堂に会し、その事始となる奉製祭を斎行、真っ赤に熱せられた玉鋼に花山院宮司が心を込めて初打ちを奉仕、以後各々専門の方々により手が加えられ、古式に則った儀式が滞りなく執り行なわれました。

今回の復元に関わる方は、帝塚大学の関根俊一教授（美術工芸）の指導の下、人間国宝の北村昭彦氏（漆芸）、奈良県無形文化財の月山貞利氏（刀匠）、東京都指定無形文化財の本阿彌光洲氏（研師）、高山一之氏（鞘師）、宮島宏氏（白銀師）の、錚々たる方々のお力添えを頂いて取り進められています。平成二十八年の正遷座祭にはこの見事な太刀が奉納されることとなります。



林橋ノ庭にて
執り行われる
御慶之舞樂
(平成7年)

平成二十七年三月の

仮殿遷座祭ならび奉祝祭奉仕に

向け着々と進む諸準備

春日大社の御造替(遷宮)は、古来より本殿西側の移殿に暫しの間、御鎮まりを頂き、本殿の建て替え・修築が完了した時点でお戻りを頂くという祭祀形態を守っています。

天正八年に加任預であった中臣祐金が書き遺した『下遷宮日記』『長者宣』の冒頭で「当社造替者稀代之神事無雙之重事也」と、古くから世にも稀な神事であり、天下に並ぶものない重事であると記されている、深遠悠久な神事です。

永い歴史に培われた格式ある春日大社、そして六十回目となる式年造替の儀式が平成二十七年に始まります。



お砂持ち行事風景 (平成7年)

人々の繁栄と安泰とすべての生命との共生を願い 今日あることへの感謝の気持ちを伝える式年造替

第六十次式年造替記念 奉祝行事実行委員会ならび 春日野音楽祭実行委員会設立される

出雲大社の御遷宮、また伊勢神宮の式年遷宮がいずれも平成二十五年に執り行われ、一般の方々に「式年遷宮」という文言が浸透しましたが、日本の伝統・文化発祥の地、奈良におきまして、春日大社式年造替を通じ、改めてこの日本の国の素晴らしさ、日

本人の誇りを伝えるため、去る平成二十六年四月三日「春日大社第六十次式年造替記念奉祝行事実行委員会」設立総会が開催、式年造替の趣旨を広報し、事業を展開するための屋台骨が整いました。

式年造替は、神様のお住まいを新た

にするだけでなく、神様の尊さをあらためて認識し、その思いを次世代に伝え継ぐ行事です。委員会では、この日本の文化が持つ素晴らしい叡智である式年造替の歴史的、文化的意義への理解を深め、全国、ひいては世界の人々とともに広く共有化し、未来へ引き継いでいくことを願い、さまざまな行事・事業を推進・実施するとともに、内外に広く情報発信してまいります。

また奉祝行事のメイン行事として計

画されている春日野での音楽祭を実現するため四月十六日、春日野音楽祭実行委員会設立会議が催され、音楽祭企画実施に向け、第一歩を踏み出しました。具体的には神山御蓋山を背景に、歌手さだまさし氏による奉祝記念コンサートや、奈良駅より春日大社本殿に向かう導線上に大小コンサートステージが配置され、奈良の街全体が音楽ステーションとなるような計画も実施に向け検討されることになりました。

式年造替奉祝実行委員会事務局開設



右より宇堂清治(部長)・山田貴文(参与)・千鳥祐兼(事務局次長)・渡辺弓雄(事務局長)・森 誠康(参与)・岡 真吾(主任)・奥本博子(主任)

式年造替記念奉祝行事を着実に遂行するため、実行委員会事務局が開設されました。まずは七人体制で推進していきます。関係の諸機関、ならびに崇敬者各位の本奉祝行事実行委員会及び、私たち事務局に対するご理解とご指導のほどを心からお願ひ申し上げます。(事務局一同)



感謝・共生の館で開催された奉祝行事実行委員会設立総会風景

二十年毎に御社殿のご修理を執り行う原点

神さまに捧げる感謝の心

常日頃、大神様から頂いておりますお恵みに感謝すること。そのご恩に対して誠心誠意この心を風へしてご奉仕を申し上げるのがお祭りです。

春日大社では一年三百六十五日、二千二百回以上のお祭りを奉仕申し上げておりますが、そうした祭典の中で、二十年に一度執り行われる至高最上の祭典奉仕が「式年造替」です。普段のご奉仕では出来ない御社殿の御修理と御調度品の調製、それに伴う諸儀式を取り行い、真心を尽くしてのご奉仕を行って神様にお悦びいただく。大神様がお悦びくださるその御神慮を有難く拝させていただくこと、これが神々への祈り、御造替の原点にあります。

国の安泰と国民の幸せを祈り続ける当社では、春日様の広大無辺なる御加護を戴き、この式年の建て替えを、創建以来欠かすことなく執り行ってきました。

このご造替事業を、一人でも多くの方々の真心の結果により滞りなく成し遂げ、御神徳の一層の発揚と、かけがえのない文化伝統を後世に守り伝えてゆきたく存じます。



第60次式年造替での 主な儀式、行事・特別公開 (予定)



二之鳥居くぐり初め
(第59次)

平成27年 (2015年)

1~3月	御本殿特別参拝	非公開である東廻廊外・御蓋山遥拝所での参拝等、充実した施設・コースが設定されます
3月1日	木作始式(荒神祓之儀)	御造替開始に際し若草山麓の石荒神社において無事を祈念するお祓いが行われます
	木作始式(新始之儀)	御造替開始の儀式で御神前にて新始(ちょうなはじめ)が行なわれます
3月25日	移殿御装束並清祓之儀	御仮殿を新調の装束で装い、お祓い申し上げます
3月26日	六面神鏡奉遷之儀	御本殿正面に奉掲の6面の御神鏡を御仮殿にお遷し申し上げます
3月27日	仮殿遷座祭	御本殿修繕のため御神堂を仮殿にお遷し申し上げます
3月28日	御慶之舞楽	仮殿遷座祭の翌日、奉祝の舞楽が行なわれます
29~31日	御神宝特別拝観	春日創建に関わる「鹿島立神影図」や「鹿島立神」などが社頭の直会殿に展示されます
4~5月	御本殿特別公開	下遷宮を終え、ご修理に取り掛かる直前の御本殿を間近にご拝観頂きます
7~8月	本宮神社特別参拝	春日神々が御降臨された聖蹟御蓋山山頂へ、御造替を寿ぎ特別に登拝頂きます
11月	二之鳥居くぐり初め	竣工した二之鳥居のくぐり初めを行い、ご参列の皆様共々ご慶儀を寿ぎます

平成28年 (2016年)

10月	お砂持ち行事	竣工間近の御本殿内庭に清砂をお運びいただくことで、ご造替行事にご参加頂きます
10月28日	立柱上棟祭(荒神祓之儀)	立柱上棟祭に際し若草山麓の石荒神社においてお祓いが行なわれます
	立柱上棟祭	御本殿の完成を祝う儀式です
10月31日	御湯	古式に則り清祓の御湯神楽が奉仕されます
11月1日	立榊式	神山春日山より伐り出した大榊を一之鳥居に立てます
11月3日	御神宝検知之儀	新調の御神宝に遺漏なきよう確認する儀式
	御殿奉磨之儀	御本殿々内の御床を御清め致します
11月4日	御神宝清祓之儀	新調の御神宝を御祓い申し上げます
	殿内御飾之儀	御本殿々内を新調の御神宝・装束で装い申し上げます
	六面神鏡奉下之儀	御仮殿正面に奉掲の6面の御神鏡を奉下申し上げます
11月5日	御殿清祓之儀	御本殿々内をくまなく御祓い致します
11月6日	本殿遷座祭	天皇陛下のお使いを迎え、新装の御本殿に御神堂をお遷し申し上げます
11月7日	奉幣祭	天皇陛下よりの幣物(お供え)を奉獻致します
	後宴之舞楽	奉祝の舞楽が奉納されます
11月8日	奉祝祭(1日目)~	この日より数日にわたって奉祝のお祭りが行なわれます
11月9日	御神楽祈祥祭	御神楽之儀に先立ち神供や御幣を奉り無滞執行を祈念します
	御神楽之儀	先回59次式年造替を機に140年ぶりに復興された陪従神楽が奉納されます



「祝 御造替」と揮毫した書を前に挨拶をされる関係者

春日大社式年造替奉祝行事の一環として、東京・渋谷駅前ヒカリエホールにおいて奈良主催記念シンポジウム「伊勢から春日へ」が開催され、会場は満席の大盛況で、ご遷宮・ご造替への関心の高さが伺われました。

平成二十六年四月六日、午後一時半、開催に先立ち、荒井奈良県知事、奉祝実行委員会西口会長の挨拶があり、最初に第一部として鷹司(たかつかさ)神宮大宮司による講演、引続いて第二部として花山院(かさんの

奈良県主催・式年造替記念シンポジウム

「伊勢から春日へ」開催



シンポジウム開催風景

いん)春日大社宮司による講演があり、伊勢神宮の式年遷宮、そして春日大社の式年造替についての、それぞれの長のお話しに、参加者は興味深く聞き入っておられました。そして舞楽「納言利」の公演をほさみ第三部として前のお二方に、さだまさし氏を交えての鼎談では、帝塚山大教授西山厚氏をゴードイネーターに、ご遷宮・ご造替儀式を通しての普遍的な精神性、価値観について理解を深める素晴らしい機会となりました。

第四部締めくくりとして、書家の紫舟氏のご出演、ご造替を祝した書が披露され、舞台上で花山院宮司が有り難く拝受け献納いただきました。

ご参席の方々も充実した内容に満足気で、次回の開催を心待ちにされている様子でした。

御本殿ご造替に向け着々と進む諸社殿修理

平成十九年より始まりました今次ご造替事業は平成二十五年度修理対象として計画されておりました①幣殿（へいでん・重文）②移殿（うつし）の・重文）③捻廊（ねじろう・重文）保存修理が予定通り執り行われ、幣殿につきましては二十五年十二月に竣工、移殿・捻廊につきましては二十六年三月末に無事竣工しました。

移殿は御本殿のご造替中、神様にお遷り頂くための建物で、創建は奈良時代に遡り、現在の建物は慶安三年（一六五〇）、第四十二次のご造替のもので、この社殿の建築上他の社殿と異なるところは、遷宮に当たって必ず丹塗り替え、屋根葺き替え、壁塗り替え

え等の修理が行われ、仮殿としての設置が行われることで、二十年毎のご修理が繰り返されています。また平成二十六年度修理予定建造物として中門（ちゅうもん・重文）、御廊（おろう・重文）があります。創建は、廻廊造立と同時期の治承三年（一一七九）と考えられてきましたが、今では令和二年（二〇二〇）、白河法皇が一切経蔵を建立、毎日一切経を転読させたのと同時期であるといわれています。現在の建物は慶長十八年四十次ご造替のもので、以後式年のご造替を経て今日に至っています。この中門ならび東西御廊のご修築が完了したのち、御本殿のご造替となるのです。



美しく竣工した移殿



新しい檜皮屋根がよみがえった幣殿



本年度ご修理に取り掛かる中門並びに東西の御廊

移殿工事にあわせて見学会実施



世界遺産学習として檜皮屋根の見学をする飛鳥小学校の生徒さんたち

第六十次式年造替第二期事業となる重要文化財・移殿の造替工事に併せ、檜皮葺き替え見学会を開催、多くの参拝者にご文化財修理現場を見学頂きました。

通常ならば工事中は覆屋で囲われ、一般には未公開の現場ですが、奈良県文化財保存事務所との協議の上、見学用通路を設け、檜皮葺き替えが本格化する期間を考慮し二月三日より十五日までの十三日間を公開、参拝者観光客をはじめ奈良市教育委員会の配慮により、世界遺産学習の一環として小学校の児童・生徒さん、また市内各学校の先生方、また外国人旅行者の方々と、実に多種多様な方々にご見学頂きました。

参加者は、神職・職員から一しきり神社の歴史由緒についての説明と諸注意を受けて移殿の工事現場へ移動。目の前に広がる大屋根と、真近に見る檜皮屋根の美しさに感嘆の声を上げ、そしてこの屋根を葺くために檜皮十二万枚、百年の檜三千余本の皮を剥くといった説明に、熱心に耳を傾けておられました。

さだまさし 式年造替勸進コンサート



さださんより御奉賛目録をお預かりする花山院宮司

本年もまた、歌手さだまさし様の格別なご配慮ご協力により「式年造替勸進コンサート」が五月二十三日に奈良県文化会館で開催されます。今回で四回目となり、さだ様の素晴らしい音楽と共に、「式年造替」について広く知っていただく機会ともなっています。この有り難いご奉仕は、御造替事業が完了する平成二十八年まで続く予定です。

事務局より

正月男子助勤の皆さんよりご造替へのご浄財が寄せられました。 知った男子助勤者有志の皆さんが、三年前から、皆でお金を出し合って、ご造替に役立ててほしいとご浄財をお寄せ頂いております。

お正月期間中、大勢のご参拝の方々に気持ちよくお迎えするにあたり、当社職員に加え多くの若い方にお手伝いをいただいております。女子は御巫さんのお手伝いとして白衣に袴姿で、男子はハッピー姿で参拝者を迎える縁の下の勤めである誘導や境内の清掃などに寒い中、携わって頂いております。

そうしたお正月期間中、お参りされる方々に「檜皮一束をお願いしていることを



平成26年度男子助勤の皆さん